

若者UP

検索

www.wakamono-up.jp

高卒後10年間のフリーター生活を経て 念願のプログラマへ。

株式会社ダンクソフト ● 柳沼 義智さん (32歳)

知らない世界へ 一歩を踏み出すのは やっぱり怖かった

僕は、高校を卒業してから、ずっとプールの監視員のアルバイトばかりをやってきました。プールが休場になって暇なときに、プログラミングを独学で勉強したこともあります。もともと興味があつたんです。でも、独学ではまったくわからないところがあつたりして……。結局、断念してしまいました。

実家に住んでいたのですが、両親からはちよくちよく嫌みを言われました。

「きちんと就職すれば、給料も月々もらえますし、保険のこともあるし……」。

こんなふうにくら親に言われても、僕はこのことをできるだけ考えないように、先延ばしにするようにしていました。

気づいたら、僕は30歳を目前にしています。「未経験者30歳まで」という求人票が多いこともあって、だんだん僕は焦って

きました。今まで見ないようにしてきたものを突きつけられ、何かに追い詰められているように感じました。

僕はそれまでプール監視員以外の仕事をしたことがありませんでしたから、30歳までにはなんとか就職しなければならぬと思うようになりました。そこで、すぐに地元のハローワークに行つたんです。職歴がないので、ちよふ若者サポートステーションを紹介してもらい、そこで、MIC (Microsoft Innovation Center) のプログラミング研修に参加することになりました。

自分のなかの切実な思いが 将来への一歩を 踏み出すきっかけ

MICのプログラミング研修を受け、そこからインターン、インターン先の企業に入社……と、トントン拍子に就職することができました。両親も「おめでと〜」と喜んでくれました。たぶんホッとしているんだと思います。僕は長男なので、両親は就職

して欲しかったんだと思います。

あのとき、もしハローワークに行っていなかったら、僕はまだプール監視員のアルバイトを続けているかもしれません。そして、将来への不安をできるだけ見ないようにして、なんとなく毎日を過ごしていたと思います。

「このままじゃいけない」と思いながらも動き出せない気持ちは僕にもよくわかります。人になんと言われても、自分のなかに切実な思いがないと動き出せないものです。僕の場合、それが「30歳という年齢」でした。何かきっかけがあれば動き出せるんだと思います。

焦る必要はないけど、早く一歩を踏み出したほうがいい。自分のなりのきっかけをつかんでほしいなと思います。



▲柳沼さんの仕事風景。IT企業のプログラマだが、「残業は1日30分くらい」なのだという。

高校卒業後、約10年間、プールの監視員のアルバイトを続けてきたという柳沼さん。30歳を前に「このままじゃいけない」とハローワークで職を探したとき出会ったのが、ちよふ若者サポートステーションでの若者UPプログラムでした。プログラミングに興味があった柳沼さんは、MICのプログラミング研修に参加。研修時のインターン先である株式会社ダンクソフトに正社員として入社することになりました。入社して1年が経つ柳沼さんに、フリーター時代のこと、就職に対する思い、そしてこれからのことを聞きました。